読売新聞【朝刊】千葉版（Ｐ２９）

2022 年（令和４年）４月 16 日（土曜日）

安否確認アプリ共同開発

浦安 IT企業と老人クラブ団体

アプリ「ミテルライフ」画面を示す橋本さん

浦安市のIT（情報技術）ベンチャー「アップリーチ」と、地元の老人クラブ50団体でつくる「ベイシニア浦安」（浦安市老人クラブ連合会）は、災害時に安否を確認するスマートフォンのアプリ「ミテルライフ」を共同開発し、4月から配信を始めた。同種のアプリ開発に地域の高齢者が参加するのは珍しく、回覧板の機能のほか、健康を管理できる機能も付ける予定だ。

アップリーチは、企業や学校向け体調管理アプリ「ミテル」の運営で知られる。今回、開発を主導したのは、仙台市出身で2011年の東日本大震災を経験した同社専務取締役の橋本里華さん(33)。友人2人と死別したが、防災無線が聞こえず逃げ遅れたとみられ、「もし手元に情報が届いていたら助かったはず」との思いを抱えていた。

浦安市では10階以上の高層マンションが多く、停電時には階段を使って高齢者の安否を確認するのは大変な作業となる。橋本さんらは昨年7月、ミテルを基にアプリを試作した。

同社の開発計画を聞いたベイシニア浦安の相原勇二会長(71)は「安否確認に加え、連絡網の仕組み、血圧などを記録する健康管理機能を付けてくれれば一緒にやりたい」と伝えた。同社は半年以上かけて機能を改良し、安否確認と回覧板代わりになるお知らせ機能、アンケートができるようにした。健康管理機能は初夏に実装し、助けてほしい人と助けに行ける人をマッチングする機能は年内の実現を目指す。

相原さんによると、同会で日常的にスマホを使う高齢者は全体の3～4割。習熟度に違いがあるため、ベイシニアはスマホ教室を繰り返し開く予定だ。相原さんは「スマホのアプリは使ってもらうのも苦労するが、利用すれば高齢者のためになる」と普及に意欲を示す。橋本さんは「逃げ遅れる人や災害で失われる命が一人でも減らせたら」と話している。

株式会社アップリーチ